

# 乳岩及び乳岩峡

昭和9(1934)年1月22日、国の天然記念物・名勝に指定。この付近一帯は、設楽火山岩類に属する新世代中新世に噴火してできた流紋岩質凝灰岩が分布している。

乳岩川の河床は板敷川とも呼ばれ、平坦な岩盤となっている。登山口付近には階段状をした岩石段丘が見られる。

乳岩山は浸食に耐えて残った岩山。断層の影響で発達した、垂直方向の割れ目に沿って生じた奇景が特徴。

## 石門(通天門)

乳岩川がもっと高いところを流れていたときに浸食され、風化が進み、割れ目から大きな岩がくずれ落ちて、石の門(通天門・天然橋)を作ったのではないかと考えられている。

## 乳岩峡(宇連川の支流、約2kmの峡谷)

乳岩川が削ったV字谷は、200m~300mの深さがある。乳岩洞穴から南方向に峡谷が一望できる。

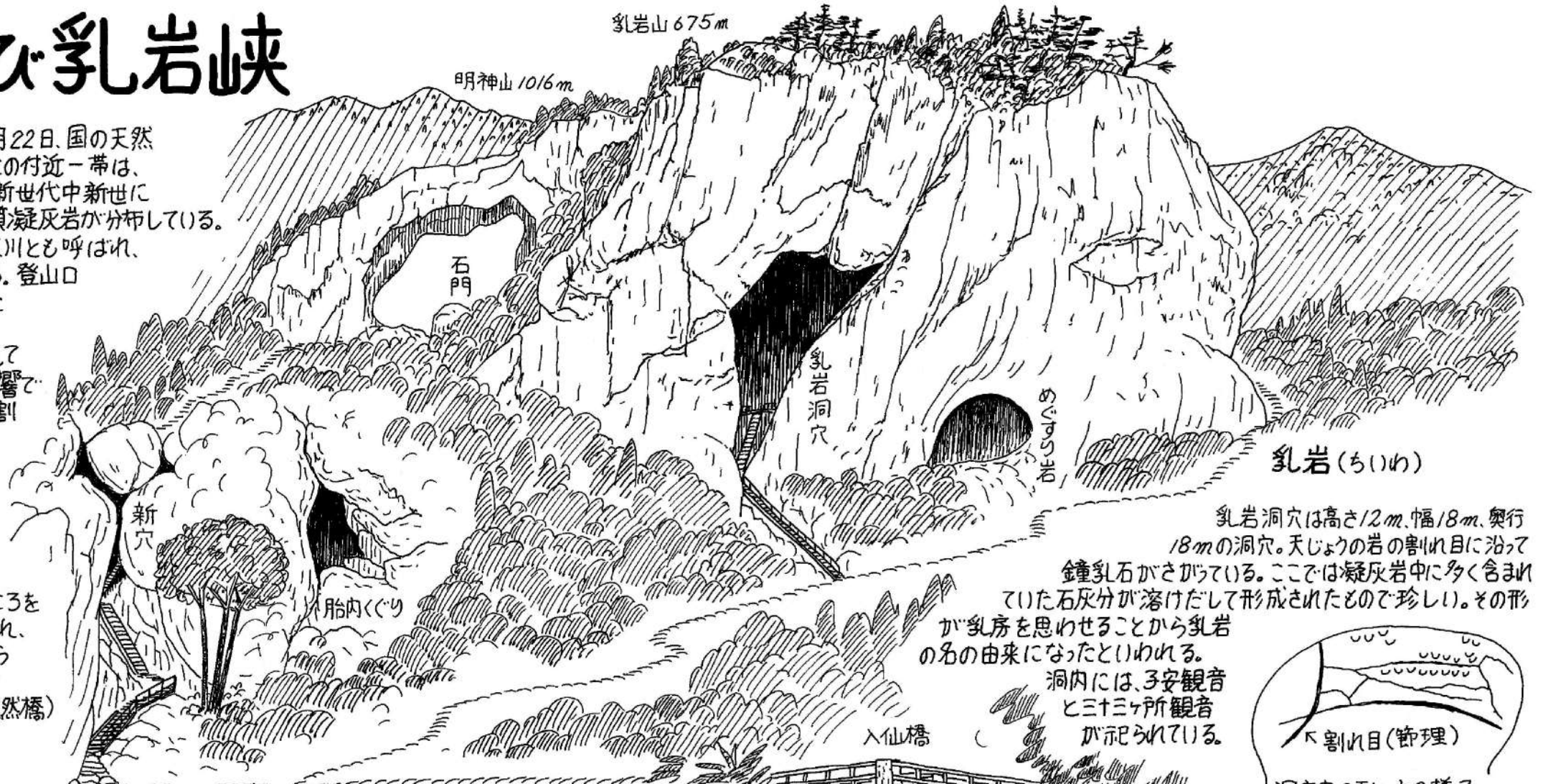


乳岩洞穴から見えるV字谷

川沿いには、ショウジョウバカマやモウセンゴケ、ヒロードリウツギやクルマバハグマなどが自生する。乳岩山では、トキワガキの自生がある。岩場では、固有種のウラジロキボウシが観察できる。きのこでは、コウボウフデやアキアシナガイコブといった珍菌も発生する。

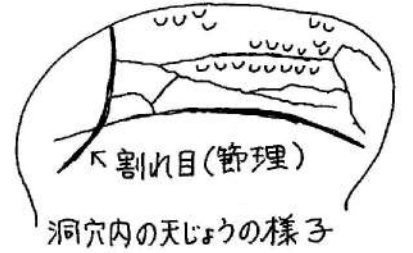
乳岩山 675m

明神山 1016m



乳岩(ちいね)

乳岩洞穴は高さ12m、幅18m、奥行18mの洞穴。天じょうの岩の割れ目に沿って鐘乳石がさがっている。ここでは凝灰岩中に多く含まれていた石灰分が溶けだして形成されたもので珍しい。その形が乳房を思わせることから乳岩の名の由来になったといわれる。洞内には、子安観音と三十三所観音が祀られている。



洞穴内の天じょうの様子

## さじき岩(椀敷岩)

昔の川底だったところが大地の隆起で浸食がすすみ、川底が下がった結果、元の川底だったところが椀敷のような形に残った。

さじき岩の上流側にあるコンクリート橋の右岸に、

安山岩の岩脈が現れている。設楽火山の活動の終わり頃、凝灰岩の割れ目に入り込んできたマグマが固ったものだ。

乳岩川(板敷川)

博物館ザッ記 No. 23 2021-V

